「生理の貧困」対策の具体化を

来年度から 生理用品を防災備蓄、更新時には無償配布へ

学校などのトイレに常備を

一般質問ではコロナ対策のほか、赤星市議は「生理の貧困」、富山大空襲の資料収集、コンパクトシティ政策について、吉田市議は東京オリ・パラ、学童保育の拡充、周辺部の課題などを取り上げました。

赤星市議は一般質問で「生理の貧困」対策について、「コロナ禍で女性の貧困が深刻さを増し、生理用品の購入困難になっている状況が報道などで明らかになってきた。これは貧困対策と同時にジェンダー平等の流れのなかでとらえるテーマだ」と提起。

県が6月補正で1千万円計上

先般、新日本婦人の会県本部と富山市支部は県と富山市に、すべての小中学校や公共施設の女子トイレに無償で使える生理用品の配置を要望し、県は、さっそく1千万円の予算を計上。赤星市議は、全国で256自治体が支援を実施していることを紹介し、富山市も具体的な対策をと求めました。市教委の金山事務局長は、保健室に用意しており女子トイレには置かない、岡地市民生活部長も、公共施設のトイレへの配置は考えていないと答弁。

舟田建設部長は、来年度から、防災備蓄品に生理用品を加え、買い替え時には無償配布に活用すると答弁しました。

中学校女子 制服にスラックス

過半数の16校で導入

性別に関係なく選べる制服を―。昨年の3月議会で赤星市議が質問した時には、ズボン、スカートなど選べる制服を導入している中学校はありませんでしたが、全26校のうち昨年度は2校、今年度さらに14校で女子の制服でスカートかスラックスか自由に選べるようになったことがわかりました。残りの学校でも検討の動きがあり、さらに増える見通し。6月25日の総務文教委員会で、赤星市議の質問に市教育委員会が答弁しました。

赤星議員の質問会議録

富山大空襲の資料収集

市内外の体験者・研究者、市民と協力して 収集急ぎ、保管・公開・活用を

「富山大空襲」は市街地の99・5%を焼き尽くし、地方都市としては最大規模の推定3千人が犠牲になりましたが、前市長の資料収集開始は2019年からと、非常に遅れました。

赤星市議は「空襲体験者は高齢化し、直接お会いできる時間は多くない。やるべきことをしないで時を過ごすことは許されない」と指摘し、年次計画を立て専従職員を置くなどして、後世に語り継ぐため急いで真剣な取り組みをと求めました。

また、市内外在住の体験者、研究者の方々や幅広い市民と協力して史料・資料を集め、市立図書館などでの保管・公開・活用を求めました。

実物を見られることがだいじなのに

藤井市長は、「富山大空襲は本市における大きな史実であると重く受け止めている」としながらも、計画策定や専従職員の配置までは考えていない、岡地市民生活部長は、お寄せいただいた品々はデジタルアーカイブ化してホームページに掲載し、現物はお返ししている、市の施設で現物での保管・公開は考えていないと答弁しました。

富山市が収集開始前に所蔵していた空襲の資料はわずか12点

学童保育

抜本的拡充で「小1の壁」解消へ

市長のリーダーシップで、条例基準のクリアを

吉田市議は一般質問で、「学童保育」（子ども会）の拡充について取り上げました。

夕方5時までしか預かってくれない

「夕方5時までしか預かってくれないので、会社を抜け出して、別の学童クラブに送っている」、「土曜日と夏休みが半日なので困る」という1年生の子を持つ親の声を紹介。吉田市議は、まさに「小1の壁」ではないかと提起。

富山市の「学童保育」（「子ども会」）は最低基準である「条例基準」（別項）に対してどうか…平日の開設時間が17時までが13ヵ所（21%）、学校休業日は「半日」が18ヵ所（29%）、年間開設日数が250日以上は24カ所（39%）しかないと指摘しました。

長年、「条例基準」を満たしていない

吉田市議は、「条例施行から7年が経ったが、長年にわたって条例基準を満たさない状況が続いている」と強調。しかも、県内の他の14市町村では、すべて条例基準をクリアしている、また旧町村の16ヵ所の「子ども会」はすべて基準を満たしており、旧富山市が一番遅れていることを直視すべきだと指摘しました。そこで、市長のリーダーシップで「小1の壁」を解消する抜本的拡充をはかるべきだと迫りました。

藤井市長は、地域の力を借りて拡充に努めると抽象的に述べるにとどまり、強い決意表明もなく、具体的な拡充策にもまったく触れませんでした。

富山市内のある地域の「子ども会」

富山市の学童保育の「最低基準」

◎学童保育（子ども会を含む）の「最低基準」は、利用児童が明るくて衛生的な環境において、素養があり、かつ適切な訓練を受けた従事者の支援により心身ともに健やかに育成されることを保障する目的で、条例に定められています。

最低基準を定めた条例

おもな基準

① 面積は子ども1人1.65㎡以上
② 一つの単位の利用者数は40人以下
③ 開所時間
(1) 小学校休業日　原則8時間以上
(2) 平日　原則3時間以上
④ 1年につき250日以上開所を原則

◇富山市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例より　(2014.4.1施行)

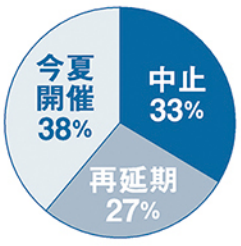
東京オリ・パラ開催

藤井市長「感染拡大は懸念されるが―「スポーツは夢と希望を与える」

吉田市議は、東京オリ・パラの開催について、専門家や国民の「感染拡大のリスクを拡げる」との懸念に対して、政府は何ら科学的根拠を示していないと指摘。藤井市長の所見を問いました。

市長は「感染拡大が懸念されるが、安全安心の大会へ努力されていると認識。五輪は平和の祭典。スポーツは、人々に夢と希望を与えるもの。富山市出身の代表選手の活躍に期待している」と述べました。

東京オリンピック・パラリンピックをどうする？



朝日新聞都民世論調査 6/26・27実施より

日本共産党

コメ暴落対策、補聴器助成―意見書提出求める請願に賛成討論

―自民・公明などが反対し不採択

●新型コロナ禍によるコメ危機の改善を求める

吉田市議が賛成討論。コロナ禍による消費消滅で在庫が増加。21年産米価も大暴落が懸念される。過剰在庫を市場から切り離すなど、政府に改善策を求めました。（請願者・農民運動富山県連合会）

●加齢性難聴者の補聴器購入に公費助成を求める

赤星市議が賛成討論。70歳以上の半数以上が難聴と推定。難聴になると、孤立しやすくなり、認知症にもつながる。国際的には補聴器の公費助成が実施されていると主張。（請願者・全日本年金者組合県本部）

討論の動画

↑吉田議員の討論は51分30秒ごろから
↑赤星議員の討論は57分13秒ごろから